ベーシックレベル　漢文

はじめに

「いくつかの句法をお経のように唱えて覚えたケド、それしかわからない」という人、たくさんいると思います。
それどころか、現時点で漢文の知識なんてほぼゼロだ…という人もいることでしょう。
そんな人でも大丈夫！
この講座は基本事項から講義しますので、「今から初めて漢文を勉強する」という人、大歓迎！です。

漢文って確かに一見、漢字だらけで変な記号がくっついていて、意味不明に思うかもしれません。
ですが、漢文は入試科目の中で、おそらく**一番少ない知識で高得点が取れる科目**です！
ただし、古文文法の知識がないと少しやっかいなので（漢文は中国の古典で、その文献が伝わった昔、日本語に訳して読みやすくする訓読方法を確立したから）、まずは古文文法を仕上げてくださいネ。

本講座は**「ベーシックレベル」**ですが、「基本だけやる」という意味ではありません。
基本から説明をして、入試問題を解くために必要な力もつくように構成してあります。

『スタンダードレベル漢文講座』との大きな違いは、
- **各チャプター時間が短時間**〔チャプターの途中で集中力が切れてしまわないように〕。
- **用例ごとの例文が豊富**〔なるべく有名な文章から取り上げました。学校の授業で見かける文もあるはず〕。
- **句法の学習の後には、教科書でも扱うような有名な文章にも取り組む**〔学校の予復習に最適〕。

●大事なことは繰り返し説明〔何度も同じことを聞くことにより、自然と復習していることになる〕。

●丁寧にじっくり解説〔わかる人には冗長に感じるかも。ですが、**「じっくり何度も確実に！」**の姿勢で〕。

「漢文なんてとりあえず句法やればいいんでしょ？」なんて思っている人もやっぱりいますよね？
でも、「句法だけひとまず勉強したけど、なかなか問題が解けない…」
そんな悩みを抱えている受験生もたくさんいるのが現実です。

――なぜでしょう？

実は**漢文で大事なことは、句法だけではありません**。
一番基本となる**「文構造」**や**「『置き字』の知っておくべき知識」**を理解できていないと、漢文は正しく読めません。
これらを理解しておくだけで、簡単に解けてしまう問題だってあるくらいです。
なのに「句法」ばかりが重要視され、これらをきちんと理解していないことが原因です。
本講座では、最初に基本知識をきっちり学んだ上で、入試に必要な「重要句法」に取り組みます。
漢詩を扱った後は、文章を読む練習をし、最後に実際の過去問を使用した実践演習にチャレンジ！
基本からしっかり理解して、実践演習で問題が解けるように、最後まで一緒に頑張りましょう！

ベーシックレベル　漢文

予復習・授業の受け方について

「実践演習」までは予習不要です。
ノートも不要です。
テキストと筆記用具さえあれば大丈夫です。
テキストへの書き込みで授業をすすめていきます。

テキスト中に**〈例題〉**や**「問題」**がありますが、講義中に問題を指定しますので、該当問題を適宜解いてください。

「実践演習」は予習が必要です。
よって、**動画を見る前に先に問題を解いてください**。
予習が終わったら、なるべく時間をあけずに該当箇所の動画を見ましょう。
自分がその解答にした根拠を覚えている間に見ることをオススメします。

講義を見終えたら、復習を必ずしてください。
特に**太字**や**空欄に自分で書き込んだところ**に重点を置いて、覚えこむまで何度も復習してください。
復習が終われば、後ろにある**「確認問題」**を解きましょう。
確認問題は何度でもできるように、答えは直接書き込まないようにしてください。
万一間違えた場合は、テキストの該当箇所に戻って復習をしてから、再度「確認問題」を解き直しましょう。
記憶を定着させるツールとして、何回でも使用してくださいネ！

目次

ベーシックレベル　漢文

第1講　基礎知識・書き下し文　p.6
第2講　返り点　p.14
第3講　基本構造　p.26
第4講　置き字・返読文字・也の読み方　p.42
第5講　再読文字　p.58
第6講　使役形　p.72
第7講　否定形（単純否定・不可能・二重否定）　p.88
第8講　否定形（全部否定・部分否定）　p.102
第9講　否定形（その他の否定）　p.110
第10講　受身形　p.122
第11講　疑問・反語⑴　p.132
第12講　疑問・反語⑵　p.146
第13講　疑問・反語⑶　p.160

PART1　基礎知識（白文・訓点）

一　基礎知識

●白文…漢字だけの文

兵少食尽。

有献不死之薬於荊王者。

況賢於隗者、豈遠千里哉。

●送り仮名…漢字の右下にカタカナでつける（漢字の横の平仮名は振り仮名）。

＊日本の古典文法に従い**歴史的仮名遣い**で書く。

兵少ナク食尽ク。

有リ献ズル不死之（の）薬ヲ於荊（けい）王ニ者。

況（いは）ンヤ賢ナル於隗（かい）ヨリ者、豈（あ）ニ遠シトセン千里ヲ哉（や）。

●返り点…漢字の左下につける「日本語の語順で読むため」の記号。

有㆘献㆓不死之薬於荊王㆒者㆖。

況賢㆓於隗㆒者、豈遠㆓千里㆒哉。

●訓点…**「送り仮名」**と**「返り点」**のこと。

＊正しくは「句読点」も入りますが、入試においては、まずは「訓点」＝「送り仮名」と「返り点」のことだとおさえておきましょう。

有リ㆘献ズル㆓不死之薬ヲ於荊王ニ㆒者㆖。

第1講　PART1　確認問題

① 白文であるものとして最も適当なものを、次の中から選べ。

ア　我読書。
イ　我ハ読ム書ヲ。
ウ　我ハ読ムレ書ヲ。
エ　我は書を読む。

② 白文に送り仮名をつけたものとして最も適当なものを、次の中から選べ。

「学而時習之。」

ア　学んで而時に習う之を。
イ　学ンデ而時ニ習ウ之ヲ。
ウ　学んで而時に習ふ之を。
エ　学ンデ而時ニ習フ之ヲ。

③ 「返り点」についての説明として最も適当なものを、次の中から選べ。

ア　漢字の右下につける「日本語の語順で読むため」の記号。
イ　漢字の左下につける「日本語の語順で読むため」の記号。
ウ　一つの文の終わりにつける記号。
エ　文の区切りにつける記号。

④ 返り点をつけた文として最も適当なものを、次の中から選べ。

ア　我行二東方一。
イ　我行㆓東方㆒。
ウ　我行㆓東方。㆒
エ　我行[㆓]東方[㆒]。

⑤ 次の文の空欄Ａ～Ｃに入る語の組み合わせとして最も適当なものを、次の中から選べ。

漢文を日本語として読むために漢字につけられた［Ａ］と［Ｂ］を合わせて「訓点」という。［Ａ］は漢字の右下にカタカナで書かれるものであり、漢字の横に平仮名で書かれる［Ｃ］とは区別する必要がある。

ア　Ａ　送り仮名　　Ｂ　振り仮名　　Ｃ　返り点
イ　Ａ　送り仮名　　Ｂ　返り点　　Ｃ　振り仮名
ウ　Ａ　返り点　　Ｂ　送り仮名　　Ｃ　振り仮名
エ　Ａ　返り点　　Ｂ　振り仮名　　Ｃ　送り仮名

確認問題　解答

第1講 PART1 確認問題 解答

〔解説〕

① 「白文」とは、漢字だけの文を指す。よって、アが正解。

② 漢文を読む際には、漢字の右下にカタカナで送り仮名をつける。その際、日本の古典文法に従って歴史的仮名遣いで書くという点に注意する。

③ 「返り点」とは、「日本語の語順で読むため」の記号であり、漢字の左下につける。よって、イが正解。

④ 返り点は、漢字の左下につける。よって、ウが正解。

⑤ 「訓点」とは、「送り仮名」と「返り点」のこと。送り仮名は漢字の右下にカタカナでつける。漢字の横の平仮名は振り仮名。よって、イが正解。

〔解答〕

① ア　② エ　③ イ　④ ウ　⑤ イ